

**日本環境教育学会第 23 回大会（東京）  
における NGO 相談員ブース出展  
出張サービス報告書**

**実施団体：**開発教育協会／DEAR

**日時：**2012 年 8 月 11 日（土）8：30～16：30

**場所：**立教大学（東京都豊島区西池袋 3-34-1）

**事業名：**日本環境教育学会第 23 回大会

**主催団体：**日本環境教育学会

**実施内容：**相談対応（ブース出展）

学会には全国各地から環境教育実践者、研究者、教員、学校関係者や学生などの約 350 名の参加者があり、開発教育、持続可能な開発のための教育／ESD、市民学習などに関心のある参加者から約 20 件の相談を受けた。学会ではあるが、研究者のみならず教員など実践者の参加も半数ほどあり、相談内容は、開発教育や ESD、国際理解教育に関する質問、教材や素材、参加型学習の手法についてなど教育実践に関わる質問が多かった。相談・照会を受けたテーマは、食料やフェアトレード、貿易、世界の貧困の現状など多岐にわたっており、これらの分野が教育現場に浸透しつつあることが実感できた。

**所感および効果：**

環境教育学会で扱われたテーマは幅広く、参加者の関心も狭い範囲の環境にとどまらず、国際協力にもつながる相談内容が見られた。とくにフェアトレードや食糧問題については、教育現場でどう扱って行くのかについて具体的な質問が寄せられた。教育実践者が多く、ここでの相談・照会内容が学校などで直接活かされるということもあり、こうした方々の集まる場で NGO 相談員ブースを出展できたことは意義があると思われる。

今回は、学会の会場ロビーが出展場所であったことから、ブースに足を止めて展示を見てくれる人も多かった。相談は個別にじっくり話すためひとりの対応に長時間かかることもあって、来てくれる人全員に、必ずしも十分対応できたわけではないが、資料などを渡すことで、少なくとも世界の貧困や国際協力に関連する事項に関心を持ってもらえる機会となった。

## 相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「第9回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」  
※出張形態：相談対応サービス
2. 出張者：今里拓哉、井上理子（(公財)PHD協会職員）
3. 実施日：2012年8月6日 13:00～16:30  
2012年8月7日 13:00～17:00
4. 場所：JICA 関西（神戸市中央区）
5. 対象者：国際理解教育・開発教育に関心のある教職員・学校関係者、学生
6. 実施報告：今回のセミナーの大きな目的は共に生きる地球社会の実現に向けて、国際理解教育・開発教育の実践セミナーを開催することである。  
国際理解教育・開発教育に関心のある教職員・学校関係者または学生向けにセミナーを行う。方法としてはワークショップを通して理解を深めてもらい、さらに教職員には実際に授業に取り入れることができるような内容にしている。今里の方からは開発教育協会が取り扱っている「マジカルバナナ」というフィリピンのバナナについての教材を使ったワークショップを行った。内容としてはフィリピンのバナナがどのように作られて、どのように日本の私たちの食卓に届いているのかをロールプレイングを通して考える。今里が進行し、参加者の方々には6人程のグループに分かれてもらいワークに参加してもらった。実際に授業で使うことを考慮し、学びのポイントを言いながら体験してもらうことによって、実際に行ったことのない国についても理解を深めてもらうことができ、教育現場で生かしてもらえるようなセミナーになったように感じる。また、井上は相談ブースを設け、セミナーの合間や休憩時間に相談対応を行った。参加者のほとんどが教職員の方々であり、NGO 相談員出張サービスへの認知度が低いように感じた。相談対応と平行して、2日目は NGO 相談員の事業内容について知ってもらうよう広報にも力を入れて行い、出張サービスの利用を検討してもらえそうな手ごたえがあった。また、教育機関への認知度を上げ、NGO 相談員制度を通して国際協力について知ってもらえるよう働きかけていくことが課題となったセミナーであった。
7. 添付画像：別紙に当日の様子を3枚添付



①国際理解教育・開発教育セミナー1日目の様子  
(相談対応中)



②国際理解教育・開発教育セミナー2日目の様子  
(ワークショップ)



③国際理解教育・開発教育セミナー2日目の様子  
(相談対応中)

## (特活) NGO 福岡ネットワーク : NGO 出張相談報告書 (平成 24 年 8 月)

### (ア) 団体名・出張サービス企画名・実施日時・場所

団体名 : (特活) NGO 福岡ネットワーク

1. 企画名 : 第 7 回国際ボランティアワークキャンプ in ASO

実施日時 : 平成 24 年 8 月 11 日 19 時 00 分 ~ 21 時 00 分

場所 : 国立阿蘇青少年交流の家 (熊本県阿蘇市一の宮町宮地 6029-1)

### (イ) 実施内容

高校生が日々の地域でのボランティア活動を点検しながら、自ら企画、運営する国際ワークキャンプにて、当団体はプログラムの一環の「未来職道」(国際協力や NPO の活動を実施している人に質問をしたり、悩みを相談したりするもの)にてブースを設け、高校生の相談への対応を行った。

### (ウ) 集客人数または相談対応件数

参加者 : 200 名 (高校生 110 名、留学生 40 名、団体・関係者 50 名)

相談件数 : 20 件

### 所感及び効果等

本ワークキャンプは一般財団法人熊本市国際交流振興事業団が事務局を務め、毎年高校生が主体となって実施するものであった。実行委員会の委員も高校生が行い、そこにサポーターとして大学生が関わるという若者主体の取組みとなっていた。企画自体は 2 泊 3 日でそれぞれ分科会に分かれ、分科会のテーマについて初めの 2 日間で調べ、最終日に発表をするという構成となっていた。当団体は 2 日目の「未来職道」において国際協力の分科会の高校生や、将来国際協力をしたいと考えている高校生の相談対応を行った。

大半の学生が自ら応募して参加しているだけあって、とても意識の高い高校生が多く感じられた。将来何をしたいかについて具体的に決めている学生も多く、『将来的に国際協力をしたい』という学生が比較的多く見られた。そのため、2 時間という短い時間ではあったが、可能な限り相談者が「これから何をしていきたいか」を聞き出し、それに合った将来の選択肢や今からできることを最大限伝えられるように努めた。

本件に関しては事務局である熊本市国際交流振興事業団が実施している熊本 SAKURA 祭に出張相談として一昨年度よりブース出展をしたことから依頼されたものである。今回の出張相談でも多くの高校生より相談があり、次年度以降も協力していただきたいとの言葉をいただいた。少しずつではあるが、NGO 相談員の認知や協力体制が進んできているように感じられた一件であった。



▲ 相談対応の様



▲ 会場の様子

平成24年9月 8日

外務省国際協力局  
民間援助連携室 殿

(特活)沖縄NGOセンター

### NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

#### 記

1. 依頼元／主催等団体名：米須村丸ごと生活博物館（米須自治会）
2. 実施日時：平成 24年8月19日 11時00分～18時00分
3. 実施場所：米須コミュニティーセンター広場
4. 実施内容：沖縄在住の外国の方々、そして米須地区で開催される「国際ワークキャンプ in 糸満市」の参加者と共に「食」をテーマに国際交流を行い、米須村丸ごと生活博物館の野菜や惣菜や世界各国（ミャンマー、タイ、インド、アフリカ）の食事をいただきながら、沖縄、世界の歌や踊りを楽しむイベントが開催された。会場の一角に相談員コーナーを設置し、多文化共生に関する相談をはじめとする相談対応や情報提供を行った。加えて、民族衣装体験コーナーを設置し、民族衣装を通して世界に触れる機会を提供した。
5. 参加者人数：総勢 300名
6. 所感及び効果

小さなコミュニティの中で初めて開催された国際交流イベント。国際交流を通して地域の活性化もねらった取組みであったが、地域内外から多くの来場者があった。小さなコミュニティ、かつ高齢者が多い地域ではなかなか外国人が地域に入ることは困難な場合が多いが、地域の方もはじめは遠巻きで見ているが、少しずつ会場の中に入っていった。イベントではあるが、触れ合う機会を少しずつ重ねていくことで互いの理解を深めていけることが期待される。このようなイベントの中で多文化共生に関する相談対応、情報発信を行えた事は意義あることだったと感じる。今後は、小さな地域でのこのようなイベントにも積極的に参加していきたい。



コーナーを設け、相談対応を行った。



ミャンマーブース。隣はタイブース。料理を通して、地域の方々と交流出来た。